



文化の花咲く 3つの博物館

飛鳥山は江戸時代中期、徳川吉宗が行楽地として庶民に開放したのが始まりで、明治6年(1873)、上野などとともに日本最初の公園に指定された。約650本の桜やツツジ、アジサイが植えられ、いまも憩いの場となっている。(飛鳥山3つの博物館)紙の博物館・北区飛鳥山博物館・渋沢史料館では、それぞれ特色ある展示が楽しめる。JR王子駅中央口から山頂を結ぶモノレール「アスカルゴ」もオススメ。



田端といえば…

◆ 近代日本文学界の寵児・芥川龍之介
東京帝国大学在学中の大正3年(1914)から昭和2年(1927)に35歳で亡くなるまで、13年近くのほとんどを田端で暮らし、数々の代表作を執筆した。たぐいまれな才気と下町育ちの世話好きな性格は多くの人を惹きつけ、田端文士村の中心人物として大きな役割を果たしたが、「唯ぼんやりした不安」という言葉を遺し、田端の家で自らの命を絶った。現在、この旧居跡に芥川龍之介の業績を単独で顕彰する施設として日本初となる「(仮称)芥川龍之介記念館」の開設に向け準備中!

◆ 100人以上の文芸芸術家が暮らした田端
明治中期まで田端は閑静な農村であったが、上野に東京美術学校が開校し、田端駅開業で交通の便が整ったことで芸術家たちが田端に集った。画家・小杉放庵、陶芸家・板谷波山が草分けとして転入、画家の社交場「ポプラ倶楽部」も誕生するなど、田端はさながら「芸術家村」であった。やがて大正期には、小説家・芥川龍之介、詩人・室生犀星も田端に暮らし始める。文壇に華々しく登場した2人を中心に友人、後輩が集まり田端は「文芸芸術家村」となった。

国の名勝 旧古河庭園

◆ 大正時代にタイムトリップできる庭園
大正6年(1917)、古河虎之助が本邸として使用した洋館と庭園が現存する。本邸の建物と洋風庭園はJ.コンドルが設計、日本庭園は京都の庭師、小川治兵衛が作庭。建物も庭園も竣工当時の姿を保存している極めて貴重な事例として、国の名勝に指定されている。

◆ 渋沢栄一と古河虎之助
慶長9年(1604)、幕府は諸街道を整備して飛鳥山からほど近い西ヶ原に一里塚を設けた。大正5年(1916)、道路改修工事にともない撤去されそうになったが、実業家の渋沢栄一を中心とする地元住民の運動、古河家当主・古河虎之助等の寄付金などにより塚の保存に成功した。大正11年(1922)には、国史跡に指定。

飛鳥山といえば…

◆ 近代日本資本主義の父・渋沢栄一
明治12年(1879)、渋沢は創業に尽力した王子製紙の工場を見渡せる飛鳥山に邸を構えた。当初は内外の賓客を招く別荘として、明治34年から亡くなる昭和6年(1931)までは家族と過ごす自邸として使用していた。栄一は約30年間「暖依村荘」とも呼ばれた自邸で暮らし同地をこよなく愛した。

◆ 邸内に現存する渋沢のおもかげ
飛鳥山公園の一角にある旧渋沢邸は、本邸の他、茶室などの建物があつたが、昭和20年(1945)の空襲で焼失、大正6年(1917)竣工の「晩香廬」と大正14年竣工の「青淵文庫」のみ、「旧渋沢庭園」内に現存し昔のおもかげを留めている。大正7年11月3日、栄一は、滝野川町在住者を飛鳥山の邸内に招いて園遊会を開催した。画家・小杉放庵、山田敬中、小山栄達、彫刻家・北村四海、陶芸家・板谷波山といった田端芸術家が出席した。



M文化ROAD

飛鳥山、田端

近代日本の偉人の暮らしたまち北区東京
渋沢栄一、芥川龍之介の旧居を結ぶ道

お願い
散策は大切な方と少人数で楽しみましょう。マスクの着用、屋内での会話は最小限に。

便利なKバス
100円でこのエリアを回る2路線の「Kバス」を使うと移動が便利です。
地図中の◀はバス停の位置と方向を示します。
●…王子・駒込ルート
▲…田端循環ルート

©Mie Takahashi 2021
※イラストの無断使用を禁ず。

文化ロード

この点線が北区の文化ロード
飛鳥山・田端間約3km、ほどよいお散歩コースだね

旧古河庭園
この点線が北区の文化ロード
飛鳥山・田端間約3km、ほどよいお散歩コースだね

田端文士村記念館
直筆原稿など当時を偲ぶ資料や、芥川の家精巧なジオラマは必見

芥川龍之介記念館
芥川龍之介の創作期に家族とともに過ごした地
清志郎(居酒屋・炭火焼鳥)
福寿庵(そば)
芥川龍之介の書簡に登場する蕎麦屋

東覚寺
谷中七福神や赤紙仁王で有名。一對の仁王の右が阿像で左が吽像。病が治るようにと患部にお札を貼ります

文化ロード

この点線が北区の文化ロード
飛鳥山・田端間約3km、ほどよいお散歩コースだね

旧古河庭園
この点線が北区の文化ロード
飛鳥山・田端間約3km、ほどよいお散歩コースだね

田端文士村記念館
直筆原稿など当時を偲ぶ資料や、芥川の家精巧なジオラマは必見

芥川龍之介記念館
芥川龍之介の創作期に家族とともに過ごした地
清志郎(居酒屋・炭火焼鳥)
福寿庵(そば)
芥川龍之介の書簡に登場する蕎麦屋

東覚寺
谷中七福神や赤紙仁王で有名。一對の仁王の右が阿像で左が吽像。病が治るようにと患部にお札を貼ります

文化ロード

この点線が北区の文化ロード
飛鳥山・田端間約3km、ほどよいお散歩コースだね

旧古河庭園
この点線が北区の文化ロード
飛鳥山・田端間約3km、ほどよいお散歩コースだね

田端文士村記念館
直筆原稿など当時を偲ぶ資料や、芥川の家精巧なジオラマは必見

芥川龍之介記念館
芥川龍之介の創作期に家族とともに過ごした地
清志郎(居酒屋・炭火焼鳥)
福寿庵(そば)
芥川龍之介の書簡に登場する蕎麦屋

東覚寺
谷中七福神や赤紙仁王で有名。一對の仁王の右が阿像で左が吽像。病が治るようにと患部にお札を貼ります